

シンポジウム「障がいのある人もない人も地域で自分らしく暮らすために」を開催して

高齢者・障害者支援センター運営委員会委員長 豊田 泰史

本年3月20日（土）（午後1時30分～午後5時、於：中央コミュニティーセンター3階多目的ホール）、当会と和歌山県との共催で、シンポジウム「障がいのある人もない人も地域で自分らしく暮らすために」を開催致しました。

平成18年12月13日、国連で障害のある人の権利に関する条約が採択され、日本政府は平成19年9月28日にこれに署名しました。平成21年12月8日には内閣府に「障がい者制度改革推進本部」が設置され、今後、この条約の批准に向けた取り組みが一層進められることとなります。

このような中で、千葉県では、平成18年、誰もが暮らしやすい社会づくりを進めるために、「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が制定されました。

今回のシンポジウムでは、和歌山県における現状を踏まえ、誰もが自分らしく地域で安心して暮らせる社会とはどのようなものか、そのような社会にするためには何が必要なのかについて考えることにしました。

I. 県からの報告

～紀の国障害者プランについて～

最初に、和歌山県障害福祉課の山崎純一氏から、和歌山県の障害者福祉計画について説明をして頂きました。

和歌山県では、昨年2月に人権に関する県

民意調査を実施し報告書がまとめられています。しかし、「障害のある人もない人も、共に生きる和歌山」をつくるためには、県行政がこの計画を着実に実行していただくだけでは足りず、市町村や関係機関、地域の人々、障害のある人、その家族や支援する人など、県民と力を合わせて取り組んでいく必要があるということでした。

II. 基調講演

「条例のある街

～千葉県の取り組みを踏まえて～」

講師 野沢 和弘 氏

基調講演では、「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」について、毎日新聞論説委員で千葉県障害者差別をなくすための研究会座長をされた野沢和弘氏から、この条例策定に至るまでのお話を伺いました。

千葉県では、堂本暁子前千葉県知事の下で、障害者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるようなシステムの構築を目指し、どんな障害があっても、ありのままにその人らしく地域で暮らせるような施策が検討され、その中で、千葉県独自の障害者差別をなくす条例が策定されました。

平成16年11月には「障害者差別をなくすための研究会」が設置され、その委員は千葉県のホームページで公募されました。委員

は、県民から寄せられた800を超える差別事例を題材に、教育、福祉、医療、労働、商品・サービスの提供、建物・公共交通機関、不動産取引、情報の提供等の分野ごとに、「何が差別にあたるのだろうか。どうしたらなくすることができるのだろうか」と一つひとつ丁寧に検討し、白熱した議論を積み重ね、その結果条例が作り上げられました。

野沢和弘氏は研究会座長を務められ、その検討過程では様々な苦労があったとのことでしたが、この条例は決して障害者のためだけの条例ではないこと、同時代に生きる人々がそれぞれの違いを認め合い、多様性を楽しむのがこれからの成熟社会のあり方であることなど、示唆に富むお話を伺うことができました。

Ⅲ. パネルディスカッション 「障がいのある人が地域で自分らしく暮らすために」

コーディネーター	堀江佳史委員
パネラー	野沢和弘さん
	伊藤静美さん
	笹尾恭子さん
	高梨憲司さん

パネルディスカッションの部では、野沢和弘さんの他、和歌山市内で精神障害者等の自立支援に取り組んでおられる社会福祉法人一麦会（麦の郷）理事の伊藤静美さん、自閉症・身体障害者のお子さんなどの自立支援に取り組んでおられる特定非営利活動法人ハッピーボックス代表理事で社会福祉士の笹尾恭子さん、野沢さんとともに「障害者差別をなくすための研究会」の副座長を務められた高梨憲司さん（ご自身も視覚障害者で、千葉県障害のある人の相談に関する調整委員会副委

員長）に、それぞれの活動を通じての障害者差別の問題についてお話をして頂きました。

高梨さんからは、障害者が暮らしやすい社会というのは健常者にとっても暮らしやすい社会であると、条例策定の意義についてお話を頂きました。

伊藤さんからは、身寄りのない精神障害者児童をすぐに入院させてきた行政に反発して、精神障害者共同作業所を立ち上げてきたことや、地域社会の理解を得るための実践例などをお話し頂きました。

笹尾さんからは、障害者自立のための社会の環境整備がまだまだ不十分であることなどお話し頂きました。

当日は、障害者の方、支援団体関係者、弁護士、行政職員、新聞記者等、約90名の参加があり、最後まで熱心に講師、パネラーの皆様のお話に聞き入っていました。

皆さんがお話されていたように、障害者が暮らしやすい社会というのは健常者にとっても暮らしやすい社会であるとの視点は非常に重要な視点であり、地域の活性化ということから見ても、これからの和歌山が最優先で取り組んでいくべき施策であるということを感じさせられました。

今回は、千葉県の障害者差別をなくすための取り組みという観点から、「障がいのある人もない人も地域で自分らしく暮らすために」はどのようにしていけば良いのかを考えてみることにしました。当委員会としても、今回のシンポジウムを契機に、県内の障害者を取り巻く環境等について調査を進め、この問題に本腰を入れて取り組んでいかなければならないと思いました。

今回のシンポジウム開催にあたっては、パ

ネラーの皆様をはじめ、和歌山県障害福祉課の皆様、手話通訳を担当して頂いた和歌山県聴覚障害者情報センターの皆様、資料の点字訳をお引き受け頂いた和歌山県立和歌山盲学校の皆様など多くの方々のご協力を得ることが出来ました。皆様には感謝を申し上げたいと思います。

最後になりますが、今回のシンポジウムの成功は、コーディネーターを務めて頂いた堀江佳史委員、本企画からパネリストとの打ち合わせ、アンケート集計等に尽力頂きました長岡健太郎委員他、若手の委員によるところが大きかったことを付言します。



基調講演



パネルディスカッション